

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第47号

発行日：平成22年11月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

夏休みわくわく教室

酒井 かづえ



連続猛暑が10日間続いた8月24日、2年ぶりに中央公民館で13時30分より約30名の小学生が集まり、「ペーパーアートと紙芝居と勾玉づくり」が開催されました。

第1部

◎ ペーパーアート「すもんだぬき」→滑稽な動きで時々笑い声が出てとても面白かったです。

◎ 紙芝居「赤くなったコウノトリ」→低学年には少し難しかった様ですが、可哀そうなコウノトリの絵に引き込まれていました。

◎ 紙芝居「清酒発祥の地 伊丹」→同伴のお母さん方が感心して見られ、昔の伊丹に興味を示して下さいました。いずれも伊丹の民話で初めて知ったお子さんもいたことでしょう。

第2部 「勾玉づくり」

勾玉とは古代より魔除けの石、招運の石として、祭事をする者や位の高い人たちが身につけていました。その形は、日と月、牙（きば）、胎児、腎臓など信仰の形としてさまざまな意味合いを持っているようです。日本では現在は「勾玉」と書きますが、日本書記では「曲」を訓読みして「曲玉（まがたま）」と記しています。

当日は五つのグループに分かれあらかじめ下準備をしていた勾玉用の石を文化財ボランティアメンバーの指導により3種類の紙ヤスリで磨き、思い思いの形をした勾玉が完成し紐を通して首にぶら下げて帰りました。

〈満足は他人に求めて得られるものでなく、他人のために尽くして得られるもの〉……30名のお子さんが「ありがとう」「ありがとう」と言われ笑顔で帰り スタッフ一同心地よい疲れを味わいました。

最後に借りた会場を、『来た時よりも美しく』の気持ちを込めて片付け・清掃をして公民館を後にしました。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。

(☎：072-784-8090)

伊丹郷町にある寺院の紹介

田中 實

最近、ガイド資料を作成するに当って、各寺院から得られた情報を下記に紹介します。

◎ 正覚寺

浄土宗、願成山正覚寺は知恩院末寺です。



文明元年（1469）の創建で開基は馨（きょう）誉上人とつたわります。本堂は『有岡庄年代秘記』によると宝永4年（1707）建立とあり、安政3年（1856）に大改修が行われ、近年まで護持されましたが、平成16年、西側の産業道路拡工事に伴い本堂、庫裡、等が建て替えられました。その際、本堂内陣格「花丸天井」と欄間の二十四孝物語の一部の彫刻も復原されています。新たに産業道路沿いに表山門が造られました。

◎ 墨染寺

寺伝によると華嶽山墨染寺の開基は天正年間（1573～1591）とされています。



また墨染寺の名称の由来は秀吉の家臣で京都深草の領主大嶋氏の娘が、伊丹に嫁いだとき、墨染薬師の尊像を安神仏として持参し、小庵に遷座したのが始まりとされています。薬師堂に木造薬師如来座像が安置されています。現在も京都市伏見区深草墨染町の地名があります。本堂は宝永年間（1704～1711）に鬼貫の生家上島家

により再建され、このとき釈迦牟尼如来尊像を安置、本尊とし曹洞宗のお寺になりました。建物は平成7年に全面的に新・改築されました。

◎ 法巖寺



浄土宗、迎接山法巖寺は京都、知恩院末寺です。寺伝によると元は昆陽

寺の塔頭の1つで昆陽村にありましたが、大永2年（1522）2月、西誉炭弁和尚によってこの地に移築されたとありましたが、『法巖寺誌』によると平成7年に発見された江戸時代の「本尊座光再興奉加牒」では荒木村重の要請により永禄年間（1558～1570）にこの地に移されたとなっています。現地に移された年代は特定できませんが、事実上の開山は慶長4年（1599）に没した2代炭誉上人のときとあります。

木曜班主催屋外研修

松木 直志

木曜班主催の屋外研修は9月29日高槻市内をまわりました。暑さがまだ残っていると思い、移動距離を短くし歩く時間も2時間程度としました。当日は暑さも去り爽やかな秋日和となりました。高槻市を選んだのは、西国街道で伊丹とつながっている（芥川宿—昆陽宿）ことや高槻城の高山右近が有岡城の荒木村重の配下として共に信長と戦ったことがあることなどです。ガイドは地元のボランティアにおねがいました。ガイドも案内資料も有料です。案内資料は有料なだけのことにはありコースにあわせて編集してありました。これは当会でも見習うべきで市内の文化財の説明をライブラリーしておいて、誰でも必要

に応じて編集して配布できるようにしたらどうでしょう。ガイドの方はやはりできるだけ多くの所を案内したいとの気持ちがあるのでしょうか。時間が少し足りなかった。カソリック教会の中の見学からはじめて、しろあと歴史館、歴史民俗資料館、城跡公園、西国街道を少し歩き芥川宿一里塚で解散としました。

この高槻研修は、伊丹や当文化財ボランティアの会と縁（えにし）があるとつくづく感じました。



5月にバス研修で訪れた長浜市高月町は、槻（けやき）の大木が多くあった（渡岸寺門前の川側に大きな槻があった）から高槻と

よばれ、月見の名所（大江匡房の和歌あり）といわれ高月と変わった。それに対して、高槻市はもともと高月（高月読社あり）であったのが、入江氏が入城した戦国時代から高槻と書かれたといえます。また孤高の詩人藤井竹外の人生を激動の同時代に生きた橋本香破のそれと重ね合わせると感慨深いものがあります。

その後、有志の皆様で昼食をかねての反省会はおおいに盛り上がりました。参加していただきました23名の皆様おつかれさまでした。

歴史ロマン体験学習報告

富永 佳代

残暑厳しい9月4日、伊丹空港のスカイパーク体験学習室で行われた、表題事業の「印鑑づくり」に参加しました。

スタッフは市社会教育課職員2人、文化財ボランティアの会から6人が参加。9時から準備開始。横長の机を2個合わせて四

つのグループを作る。ハンコの削りカスが出るので新聞紙を広げておく。主な必要物品は2.5cm角で長さ5cm位のろう石、ろう石を刻む10cm位の釘、刃が3mm位の平たいノミ。他に軍手やマスクを置く。10時前に本日の主役の小学生（低学年）が保護者と参加し会場はにぎやかに。小学生は19人。社会教育課の職員からオリエンテーションが始まる。小さい子供に「ハンコ」を説明するのは結構難しい？文化財ボランティアが関わる意味は？と思いながら聞いている私。（なるほどこう説明するの・・・）ボランティアは一人ずつ各グループに張りついた。私のところは男児のみ4人。付き添いはお父さん1人とお母さん3人。3人のうち2人知り合いらしく男の子同士も内とけて作業をしていた。

ろう石に名字の一字を刻み、下面には野球のボールやカブトムシを彫ったりして、各自のハンコが完成。朱肉をつけて押印して見て、刷り上がりや皆で楽しみました。他の子供達が帰ってしまっても、自分が納得するまで仕上げる熱心な子もいて感心しました。内心、子供さん達がケガをしないようにと心配しましたが、何事もなく無事役目が終わりホッとしました。

天神川は天井川 坪倉 聖博

私は自転車で市内外を走り回る事を一つの趣味としている。あてもなく時には武庫川を下り5号湾岸線をも越え、ほぼ河口近くまで行く事や猪名川を下ることもある。同じコースでもその時々で風情も違うし、下流へ向かう眺めと上流へ向かう眺めも違い楽しいものである。旧街道筋も良く走るが昆陽池の西を流れる天神川も良く走るコースである。昆虫館西の天神川に架かる大池橋から上流へ向かう。暫らく進むと川沿いにあるスポーツセンターからはテニスに興ずる声や、鴻池小学校からは子供たちの元気な声がする。このコースはあ

まり登っていないのでペダルをこぐのも苦にならずジョギングや散歩中の人々に多くすれ違う。この川の特徴は天井川(てんじょうがわ)で、川床の高さが周辺の平地より高い川の事である。その構造が分かりだすのは荻野の春日神社辺りからで、川土手から川床と平地を見比べるとその高低差が分かる。その先の中国道をくぐり少し行くと川の下を一本の道が通っている。下りて見ると玉子形をしたトンネルが川の下を貫いている。中に入って見ると太い鉄骨を馬蹄形に曲げ補強された古めかしいトンネルである。この道は戦時中、



天神川の下を貫くトンネル(旧陸軍の線路跡)

今のJR中山寺駅から、現在の宝塚市山本野里にあった陸軍兵器廠への列車の線路跡で、中国道で分断されているが線路跡の面影を残しながら山本野里辺りまで続く。再び川土手に戻り上流へ進むと荒牧バラ公園がある。ここらでは川床と平地の差がより良く分かり天井川の構造が理解できる。バラ公園に行かれた時は天神川の土手に上がり一度見てみて下さい。一説に僧行基が作ったと言われる川、先人たちの知恵と技の素晴らしさが実感できます

北条早雲の生き方が教えるもの 「早雲寺殿廿一箇条に込められた思い」(4) 濱田 辰洋

早雲の肖像画を見ると、僧衣をまとい剃髪した禅僧の姿をしています。一国の大名となっても決して贅沢に走ることなく質

素儉約に努め、常に自らを厳しく律し続けたのも、若い頃の学びによるものが大きかったと私は考えています。食うか食われるかの戦国の乱世にあって、早雲は何を考え、子孫に何を残そうとしたのでしょうか。それを端的に示すものは早雲本人が後世のために書き残した「早雲寺殿廿一箇条」と云われる大名の心得です。北条家が百年にわたって続いた大きな要因の一つはここにあるように私は思います。

その冒頭には 一、「第一、仏神を信じ申すべき事」とあります。この短い一文で若き一時期、仏道に専念した早雲の思いが読



北条家 家紋・印章・花押

み取れます。また質素儉約の奨励については六条目で次のように述べています。一、「刀、衣装、人のごとく結構に有るべしと思ふべからず。見苦しくなくばと心得て、無き物をかり求め、無力量(かさ)なりなば、他人の嘲(あざけり)成るべし」つまり、刀や衣裳などは放っておくと派手になっていく傾向があり、早雲はそうした華美を戒めているのです。早雲の質素な生活ぶりを見ていた氏綱は、三代目の氏康に対する遺言状に「私の父早雲は、けちと云われるくらいの人間だったが、それによって力をつけたのだ」と云うような一文を添えています。質素儉約の家風はこの様にして後世に受け継がれていきました。また、早雲の質素儉約ぶりは国内だけでなく広く知られるところとなりました。越前の朝倉宗滴が子孫に対して「伊豆の早雲は落ちていた針を拾い、それを蔵に積んでいるほどの武将だが、いざ戦いと云う時には大事にしまつて玉を砕いて臨んだ」と云う内容を書き留めた記録も残っています。玉を砕くと

は物の譬え（たとえ）で、普段は儉約の努めながらも、戦の時にはたくさんの武器を集めて十分な準備の上で戦いに臨んだ早雲を朝倉宗滴は賞賛しているのです。

北条早雲の生き方が教えるもの 「北条早雲に見るリーダーの条件」 (5) 濱田 辰洋

「早雲寺殿廿一箇条」にはこのほかにも、早雲がいささかも気を緩められない緊迫感の中で如何に自らを戒め、人に対して誠実であったかを窺わせるものがあります。例えば 一、「拝みをする事、身の行ひ也。只、心を直にやはらかに持ち、正直、憲法にして、上たるをば敬い（うやまい）、下たるをば憐（あわれ）み、有るをば有るとし、無きをば無きとし、有りのままなる心持、仏意・冥慮にもかなふと見えたり。たとひ祈らずとも、此心持あらば、神明の加護有り之（の）べし。祈るとも心曲らば、天道に放たれ申さんと慎むべし。と云う条目です。特に「上たるをば敬ひ、下たるをば憐れみ」という一文は「撫民」と言い換えることができ、民に見放されてしまっ

は領主として滅びる以外はないという早雲の思いが込められているようにも思えます。このような領民に対して誠実な心持で接することの大切さは二十一箇条すべてに共通したことで、十四条目の冒頭では、

一、上下万民に対し、一言半句にても虚言を申すべからずと述べています。軍略的には別としても、悪逆非道な戦国武将が多い中で、早雲のこのような誠実さは異色です。そしてその誠実さで領内支配に臨んでいたことが民衆の支持を得、富国強兵に繋がったのだと思います。「早雲寺殿二十一箇条」は後々の武将にまで影響を与えました。最後の二十一箇条目には、

一、文武弓馬の道は常なり。記すに及ばず。文を左にし、武を右にするのは古（いにしえ）の法、兼ね備へずんば有べからず。

とあり家康は「武家諸法度」を發布するに当たって、この項目を参考にしたとされています。早雲の生き方に思いを馳せる時、私の頭に浮かぶのは「率先垂範」という四字です。

伊豆討ち入りの時、自ら先頭に立って陣頭指揮を執った早雲の姿からは、指導者としてのあるべき姿を学ぶことができます。大切な将の条件の一つとあってよいでしょう。二つめは人心を掴むことです。早雲も領主として家臣や領民たちを従わせる術（すべ）を心得ていました。

京都滞在中には、応仁の乱後の荒廃した京の様子や苦しむ人たちの姿を見、一方で贅沢三昧の生活を続ける足利一族の姿を目の当たりにしています。そういう悪政を反面教師として新天地に理想の国を築きたいという思いを長年温め続けた事でしょう。早雲の人心握術のペースにはその誓いがあったのだと思います。そして三つ目は、やはり機を見る力です。トップに立つ者は常に判断を迫られており、早雲はここぞという機を見抜いて果敢に攻め入ったのです。もちろんその根底には領土を拡大という大きな野心があったことは言うまでもありません。

早雲の後を継いだ氏綱は相模から武蔵国へと領土を拡大し、関東を治めるようになります。冒頭に述べたように、北条家の治世は五代百年の長期に及び、この間、領内には大きな混乱はありませんでした。飢饉や天災に見舞われた時も、年貢を軽減したり、領民の意見を政治に反映して難局を乗りきっています。

それを思うと、私は一人のリーダーの存在がどれほど大きいものかを考えさせられるのです。修養に努め、領民の幸せを願った将の一面だった。

完



主な活動記録

ガイド実施記録 (2010. 08～2010. 10)

	2010年08月		2010年09月		2010年10月		10.04～10.10 累計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
月			1	10			1	10
火					1	40	3	98
水					2	79	4	195
木	1	30	1	35			4	122
金					1	11	2	34
土			2	74	2	73	5	162
日							2	60
計	1	30	4	119	6	203	21	681

ガイド内容

- ・8/19(木) 旧岡田家(近畿高校家庭科教育会 西宮)
- ・9/11(土) 特別コース(兵庫歴史研究会 神戸)
- ・9/18(土) 旧岡田家・石橋家(重森三玲の足跡を訪ねる旅 岡山)
- ・9/20(月) Bコース (ひとまち創造講座 伊丹)
- ・9/23(土) 旧岡田家・石橋家(近鉄友の会 大阪)
- ・10/2(土) 鴻池稲荷祠碑 JTB(ギャラクシー水文化 大阪)
- ・10/8(金) ACコース(猪名川友の会 猪名川)
- ・10/9(土) 旧岡田家・石橋家(生涯学習カレッジ 猪名川)
- ・10/20(水) 旧岡田家・石橋家(歴史散歩「下村塾」三重県)
- ・10/26(水) 旧岡田家・石橋家(いずみ健老大学あるこう会 堺)
- ・10/27(水) 旧岡田家・石橋家(歴史散歩「下村塾」三重県)

どんぐり座公演 (8月～10月)

- ・8/24(火) わくわく教室 ①ペープサート→ すもん狸
(中央公民館) ②紙芝居→ 赤くなったこうのとり・清酒発祥の地伊丹
- ・10/24(日) ボランティアまつり(伊丹小) ①紙芝居→ 三軒寺の砂掛け狸
- ・10/31(日) ロマン事業(アイホール) ①紙芝居→ 清酒発祥の地伊丹

いたみボランティアまつり

- ・10/24(日) ボランティアまつり(伊丹小)紙芝居公演・昔の遊びコーナー・史跡ガイドを実施

歴史ロマン体験学習の支援

- ・8/7(土) 革製ブレスレット作り 9/4(土)印鑑作り 10/16(土)ミニ木棺作り

11月～01月の予定

- ・有岡城跡の清掃実施→ 毎月第4火曜日 午前9時30～
- ・歴史ロマン体験学習の支援予定
- ・11/6(土) 発掘体験 12/18(土)ステンドグラス風鉛筆立作り 1/22(土)勾玉づくり

編集後記

暑い暑いと言っていたら急に冷え込み、身体の切り替えが出来てない。周りから風邪をひいたとの声も聞く。今年もまた、インフルエンザに振りまわされるのかな～。皆さん、体調管理をしっかりと元気で活躍下さい。(TR)